『都市の経済学　小テスト No.２』

学籍番号：　　、氏名：

満点　22 点	
試験結果	
受験者数	55 人
最高点	20 点
最低点	3 点
平均点	9.6 点
標準偏差	3.98 点

○以下の各問に答えよ。選択肢となっているものには、正しいものに丸印をつけよ。

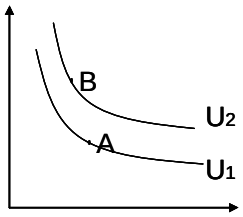
問 1．無差別曲線について（1 点×4 問＝4 点）

問 1.1.　無差別曲線とは、ある個人の（比較優位、公共性、満足度、外部性、）を示す曲線である。

問 1.2.　同一無差別曲線上の各財の組み合わせは（異なる、同じ、ランダム）効用を表す。

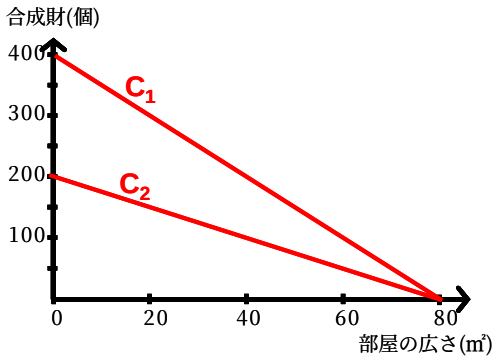
問 1.3.　ある個人の無差別曲線が交わることは（ある、ない、稀にある）

問 1.4.　下記の図はある個人の 2 つの無差別曲線を表している。このとき個人の効用は(A=B、A>B、A<B）である。



問 2．予算成約について（2 点×3 問＝6 点）

問 2.1.　月給 40 万円の人が、合成財と住宅サービスを受容するケースを考える。ここで、合成財の価格は 1000 円/個であり、1 ヶ月の家賃は 5000 円/㎡であるとする。予算成約線 C_1 を図に書きこみ、C_1 と記せ。



問 2.2.　合成財の価格が 2000 円/個に値上がりした。新しい予算成約線 C_2 を上記の図に書き込み、C_2 と記せ。（※書き込んだ直線に C_1、C_2 と書き、区別可能なようにすること）

問 2.3.　価格上昇前後において、この個人の最適な消費の組み合わせは｛250 個、30 ㎡｝から｛100 個、40 ㎡｝へと変化したとする。これは（所得効果のみ、代替効果のみ、所得効果と代替効果の両方、所得効果と代替効果以外）の結果である。

問 3．補助政策について

問２のように、合成財の価格上昇が生じたため、政府は所得補助政策と合成財補助政策*を考えている。どちらの政策を実施するのが適切か考えてみよう。月給は 40 万円、合成財の価格は 2000 円/個、家賃は 5000 円/㎡とする。

*合成財補助政策とは、合成財の購入にのみ支出可能な補助金のこととする。

問 3.1.　政府は 10 万円の所得補助を行った。予算成約線を求めよ。

$500000 = 2000 \cdot X_1 + 5000 \cdot X_2$

問 3.2.　政府は合成財購入に対して 400 円/個の補助政策を行った。予算成約線を求めよ。

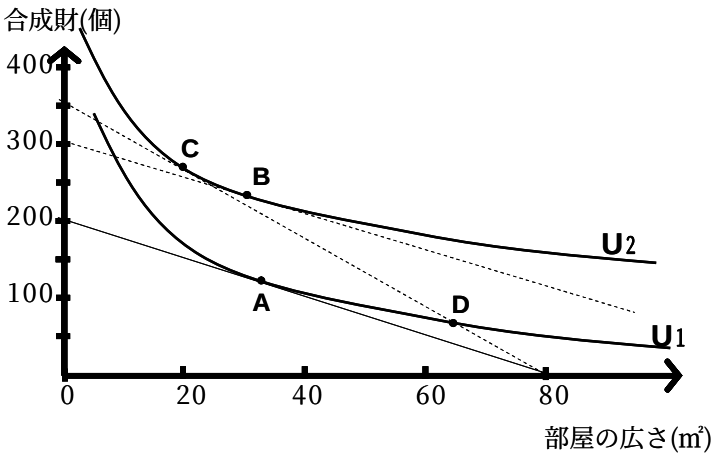
$400000 = 1600 \cdot X_1 + 5000 \cdot X_2$

コメント [h1]: 問 3.1.および問 3.2.は、ほとんどの人が回答できない状況だったので、採点対象としません。10/29 の授業で解説を行います。

問 3.3.　下の図は二つの政策を行った場合の模式図である（問 3.1 や問 3.2 とは異なる金額で補助を行っている状況なので注意して欲しい）。補助政策を実施する前の最適な消費の組み合わせは A であり、効用水準は U_1 である。政策実施後に達成される効用水準は U_2 である。

- ✓ 所得補助政策によって達成される消費の組み合わせは（A、B、C、D）である。(2 点)
- ✓ 合成財補助政策によって達成される消費の組み合わせは（A、B、C、D）である。(2 点)
- ✓ この個人にとって適切な補助政策はどちらか。どちらでもない場合はその根拠も述べよ。

個人が得る効用は同じなので、どちらでもない。(3 点)

- ✓ 政府にとって効率的な補助政策は（所得補助、合成財補助）政策である。(2 点)
- ✓ 上記の補助政策が政府にとって適切である根拠を述べよ。

投入する補助金が少ないのは所得補助政策なので。(3 点)